

活動報告書

報告者氏名：八木佳子 所属：神奈川県立津久井養護学校 記録日：2015年 2月27日

【対象児の情報】

- ・学年：中学部 1年生
- ・障害名：自閉症 知的障害
- ・障害と困難の内容
 - ・要求を身近な大人に言葉で伝えることができるが、自分で実現できることや目の前にあることについては、直接行動することが多い。行動する前に言葉をつぶやいても、相手に伝わったかどうかを意識していない。
 - ・気になる人に対して、自ら関わろうとするが、くすぐる、ぶつかる、叩くなどの行為になる。
 - ・活動中にその場から離れたたり、うろうろしたり、他のことを始めたりすることがある。
(やることがわからず困っている、わからない思いを伝えられないなどが考えられる。)

【活動目的】

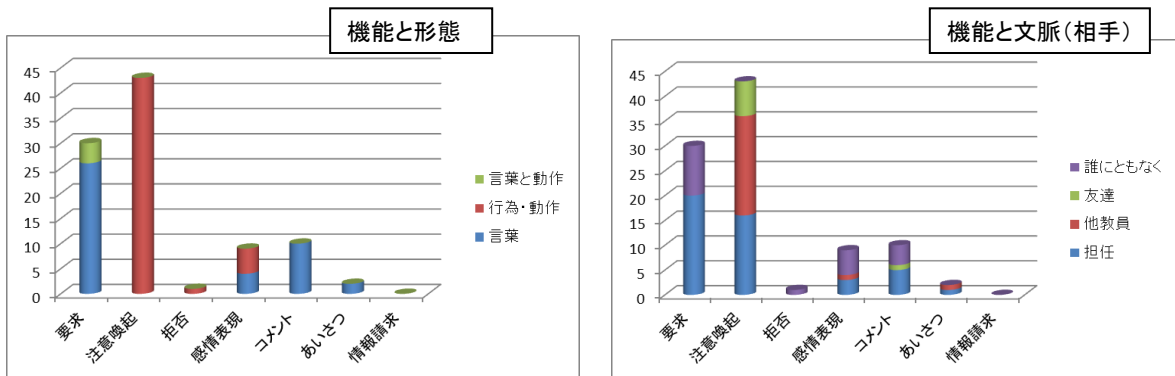
- ・当初のねらい
 - ① 相手を意識してお互いに通じる関わり方を知り、より楽しく人と関わるができる。
 - ② 行うことがわかり、自分で取り組める場面を増やす。
- ・実施期間 平成26年11月から2月
- ・実施者 八木佳子
- ・報告者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ① 入学当初(中1、4月)は、校内の興味のある所、好きな遊具のある所へ走っていくなど、教室から離れることが多かった。新しい環境でどのような場所か何があるのか、また自分の落ち着ける場所を探し、確認していたと思われる。日課カードの理解や日課に馴染む中で、突発的にどこかに走り出すことは無くなった。しかし、トイレに行く、好きな場所(体育館、自立活動室、ベンチなど)に向かう時は、教室からさっと出て行くことも多かった。行動を一旦止めて尋ねる関わりの中で、行き先を言うことはできてきた。さらに自ら人に伝えることを意識できれば、常に行動を止められることが減ると思われる。自発的コミュニケーションの記録からは以下のように表れ(下図)、要求、注意喚起について自ら発信ができていた。ただ、注意喚起はぶつかる、くすぐるなどの行為が中心であり、要求については「誰にともなく」つぶやくことも多い。まずは人に向かって要求を発信することと、呼びかけて人に関わることをできるよう支援したい。

(コミュニケーションの記録観察は 4日間の登校後、下校前、給食、昼休みの時間帯と50分×2の課題学習、50分作業学習 計95サンプル)



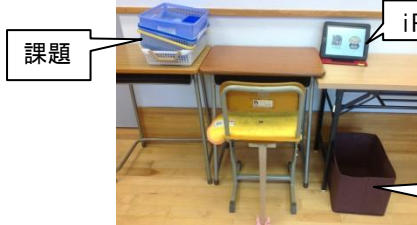
- ② スケジュールについては、クラス表示の日課表や部分的に個別のスケジュールを用い、混乱なく過ごせている。また、日常的なことは言葉で理解できるが、活動の中でその場から離れたたり、うろうろしたり、他のことを始めたりすることがある。活動内容を本生徒が理解できるように提示できていないためと考え、わかりやすい提示の仕方を内容に応じて工夫していく。

・活動の具体的内容

- ① 教室を出る前に行きたい場所を、教員に向かって伝える。
教室の出入り口に校内場所ボードを設置し、「ぼくは、に
いきたいです。」の文カードを取り外しやすく、紐で吊るした。
文カードに行き先の写真カードをあてはめて伝える。(PECS)
今後のコミュニケーションの広がりにつながるよう VOCA アプリ
で伝えることを考えたが、手渡すことが言葉を伝えることにな
るため、まずはカードを使用することから始めた。



- ② 名前を呼びかけて伝えることができる。(設定された場面)



自立課題時に教材の不足がわかり、不足している教材を「ピンク、
ふた」とつぶやくものの、教員に向かって伝えることができずにいた。
VOCA アプリを課題時に机の上に置いておき、呼びかけについて iPad を
使用するようにした。



- ③ 状況を言葉で表現する学習をする。

写真を見て、その様子をカードをつないで、表現する学習をした。
主語、対象となる事物、動詞、思い、様子などのカードを作り、提示し
ておく。写真を見て、カードを選び並べる。再生して確認し、プリントに
文として書くようにした。



- ④ 動画を通して、行うことを理解する。

○食器洗い

調理の後の食器洗いを継続して行った。工程ごとの動画を Keynote で
提示した。食器洗いの直前に見るようにした。



○和太鼓の演奏

音楽の授業で和太鼓の演奏を行った。見本の動画に「俺のデコ動画」を使い、動きを表す言葉
を示した。テレビに映し、見ながら練習を行うようにした。



○ひも結び (先行研究あり)

課題学習時「かたむすび」の練習に、見本の動画を見てから行った。

- ⑤ 時間を意識して行動できる。

○給食の終了時間を意識し、自分で片付けに向かうことができる。



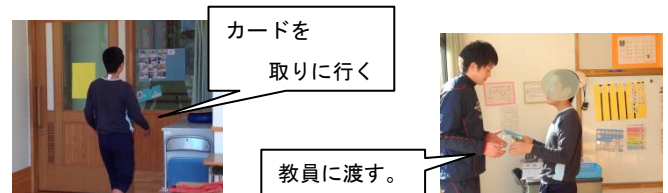
給食時に、既に食べたいものがない状態でも、いつまでも少しずつつま
んだり口の中にためていたりして、給食を終わりにすることができず、
言葉かけされても、動こうとしなかった。

給食開始時に、写真を撮り時間を設定した。3分前に「もうすぐ、終わ
りです。急いで食べましょう」のコールを入れた。

・対象児の事後の変化

- ① 行きたい場所の写真カードを文カードに貼り、「ぼくは体育館に行きます」と読むことはすぐにで
きたが、カードのあるボードに向かって言っていた。教員に渡すよう言葉かけされることで、読ん
で渡すことができた。この取り組みを始めて4週間後に、促されなくても、自ら教員に話しながら
文カードを手渡すようになってきた。

同時期にカードを持たなくても、教員の目
の前に来て、「ぼくは、トイレに行ってきます
」と言い、行動することも見られてきた。



- ② 不足教材に気づきつづやいた時に、タップして呼びかけることをプロンプトして行った。3時間目からプロンプトなしでもタップして呼びかけることができるようになった。iPadなしで、言えるかどうかはまだ行っていない。休み時間に「iPad やりたい」と以前はつづやくように言っていたが、「〇〇先生、iPad やりたい」と呼びかけられるようになってきて、他の場面でも意識するようになってきた。
- ③ 絵や写真を見て、「だれ？何してる？」等の質問に、エコラリアになったり、考えたすえ単語で答えても、その後、離席したり応答する態度がなくなったりするなど、言葉で表出することの難しさを感じられた。そこで Drop Talk HD の文章表現を行ってみたところ、絵や写真を見てカードを選び並べ、状況を表す文章を作ることがすぐにできた。また、意欲的にカードを並べる姿もあり、表出も選択する形をとれば、容易に行えることがわかった。いずれは、自分で必要な選択肢（カード）を作れるようになることを目指し、カードをその場で作りやすいロイロノートで行うようにした。ロイロノートでカードをつなげ、再生をする手順もすぐに覚え、写真に応じてカードを選んでいる。思いや様子のカードもよく見て選んでいる様子がある。表現したいと思った時に、本生徒が自分で表現できる方法の一つにすることができるか、取り組みを続けたい。
- ④ ・食器洗い…事前に動画で示した時とそうでない時とでは、スポンジの動かし方やふきんでの拭き方に違いが見られ、動画からやり方を学んでいたようだった。(担任による主観で、客観的データはない)
- ・和太鼓の演奏…練習開始時はリーダーの教員に注目することが難しく、太鼓の前に立つと自分なりに叩き始める様子があった。見本の動画をテレビに映し、見ながら練習する中で、リズムは難しかったが、休むポーズ、太鼓の縁を叩く、太鼓を叩く、撥を振るなどの動きをできるようになった。また、動画での練習を繰り返した後は、リーダーの教員を注目するようになった。
- ・ひも結びでは、目の前で見本を示す支援では、実際に行うときに手が止まりやすく、再度見本を見せても結べない状況だった。動画を見てから行くと、わからなくなると自分で動画を再生し直し確認しており、一人で結ぶことができた。(教員の見本での取り組みを10回行い、結べなかった。動画を見てからの取り組みは2回目以降、結べるようになった。)
- ・上記の3場面以外にも動画で提示を試みようとしたが、写真の提示で理解し自分でできるようになったこともあった。(例：配膳時の食具を持つ位置、配り方) 動画、写真、イラスト、文字等、本生徒にとってわかりやすい提示を、その都度工夫していきたい。
- ⑤ タイマーで時間を見えるようにした日から、タイマーのコールとともに、給食を自分から片付けることができた。また、3分前のコールを聞いて、「急げ急げ～」と言いながら食べることもあった。もっとおかわりしたいときやまだ食べ終わりそうもない時に、自分でタイマーを操作し時間を動かそうとしたこともあった。「のばしてください」と言うように伝え、交渉をして、あと何分にするかを定めることもできるようになってきた。



【報告者の気づきと今後の課題】

- ・言葉を渡してから向かう、呼びかけてからかかわるなどが少しずつ身につけてきた。人とかかわる時のシステム的なことを学べつつあると思う。今後は、伝えるといいことがある、伝えると楽しいという思いが積み重ねられるような取り組みを目指したい。
- ・新たなことや自己統制が必要なことは、動画等視覚支援があると理解しやすいことがわかった。今後も、本生徒が理解しやすい支援を工夫していきたい。また、本生徒の興味のあることを中心に自分で調べたり、作成したりする能動的に取り組める活動を増やしていきたい。

本実践は、諸事情により、対象生徒の変更をしたため、短期間の取り組みになっています。